

## Y31c 「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(3)

山村一誠 (ISAS/JAXA)、「あかり」チーム

赤外線天文衛星「あかり」の残した貴重なデータを天文学研究に有効に活用するため、われわれはデータ処理・解析・アーカイブ活動を継続している。2013年4月より始まった「あかりデータ処理・解析チーム」の活動は5年計画で、最初の3年間はデータ作成期間、後の2年がメンテナンス期間と位置づけられている。データ作成活動では、「あかり」の全天サーベイからのカタログ改訂版の作成、全天イメージマップの作成に加え、指向観測のデータを可能な限りすべて処理し、天文学的解析がすぐに行えるデータとしてアーカイブすることを目指している。

2013年10月には、北黄極深探査領域の点源カタログの改訂版を一般公開したほか、近・中間赤外線カメラ (IRC) の処理ソフトウェアのアップデートを行った。また、全天サーベイからのプロダクトのチーム内での検証を進めている。ポスターでは、初年度の成果、各データプロダクトの作成状況、評価状況、公開予定等、活動の現状を報告する。

「あかり」では、データ作成・評価・アーカイブ活動への参加を呼びかけることに加え、独自の視点で大規模な系統的解析を行ったユーザーが作成したデータを収集し、アーカイブすることも行っている。「あかり」データの有効な活用のために、データに興味を持つ研究者のプロジェクトへの参加・協力を広く呼びかけている。